

(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

東方だより

令和7年度後期号 (通号第47号)

〒101-0021
東京都千代田区外神田 2-17-2
延寿お茶の水ビル 4階
TEL : 03-3251-4081
FAX : 03-3251-4082
<http://www.toho.or.jp>
<https://www.toho-gakuin.org>

目次

理事長コラム	1頁
評議員・理事ご紹介	2・3頁
芳名録	4頁
講師紹介・研究会員・研究員の声	5〜7頁
行事イベント報告	8頁
新刊紹介	2・3・4・8・9頁
事務局通信	10頁



慈遍

理事長 藤井教公



皆様、明けましておめでとうございます。

今回は、鎌倉から室町への転換期に生きた仏教者慈遍(鎌倉末(南北朝))を取り上げたいと思います。慈遍は天台僧として学識に優れた一仏教者であるにとどまらず、王権思想と密教的世界観を媒介する知識人として、後醍醐天皇と深い関係を築いた仏教者である。

彼の出自は代々神祇官を務めた吉田卜部うらべ氏の出で、父は卜部兼顕かねあきである。また『方丈記』の作者、吉田兼好の兄にあたるという(一説に弟)。慈遍は若くして出家し、叡山で研鑽を積んで、建武二年(一二三二)には法印に任ぜられ、後に南朝から大僧正に任ぜられた。彼は叡山で台密を中心とする天台教学を学ぶと同時に、神道関係の書にも親しんでいたらしい。彼と神道との直接的つながりは、元徳二年(一二三三)頃に、伊勢神宮に参詣して内宮・外宮に法楽を供えるために『法華経』を講じたということがある、また同時期に後醍醐天皇は叡山と日吉神社に行幸した。このような機縁によって後醍醐天皇と深い親交を持つたらしい。

後醍醐天皇は、武家政権である鎌倉幕府を倒し、天皇親政を復活させようとした稀有な君主であった。その政治姿勢はきわめて理念的で、天皇が国家秩序の中心に立つべきだという強い信念に支えられて

いた。慈遍は、この信念を宗教的に裏打ちする役割を果たしたと考えられる。彼の神道思想は伊勢神道、兩部神道、山王神道が混然としており、その背後に台密の真言密教がある。伊勢神道、兩部神道神においては天照太神は大日如來の化身として位置づけられ、その子孫が天皇である。すなわち天皇は天照太神の正統な祭祀主体であると同時にその子孫で、仏法を体現する王であるとす。慈遍はこの思想を通じて、後醍醐天皇の王権観を正当化し、精神的に支えたのである。

両者の付き合い方の特徴は、主従関係を越えた「運命共同的」とも言える思想的結びつきにあった。慈遍は後醍醐天皇の近侍として重用され、祈祷や儀礼だけでなく、政治構想に関わる助言も行ったとされる。これは、鎌倉期の僧が幕府と距離を取り、宗教的役割に専念する姿とは対照的である。慈遍は、天皇の理想国家構想に共鳴し、尊皇意識の台頭という時代状況を背景に自らもまた仏教的理想を現実政治に投影しようとしたのであろう。

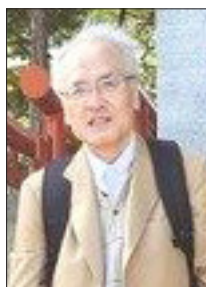
しかし、この密接な関係は、建武政権の崩壊とともに危うさを露呈する。後醍醐天皇の理念は現実の武士社会と折り合わず、足利尊氏の離反を招いた。慈遍もまた、その理想主義的政治の内部に深く関与していたがゆえに、結果として歴史の敗者側に立つことになる。それでも慈遍は、後醍醐天皇を見限ることなく、吉野への南朝移行後も精神的支柱であり続けたと伝えられる。

慈遍は天皇に仕えつつも、単なる迎合者ではなく、仏教的世界観から王権を再構築しようとした思想家であった。その姿は、理想に殉じた後醍醐天皇の生き方と重なり合い、変化の激しい時代における精神史の一断面を鮮やかに示している。

評議員・理事ご紹介

評議員と研究

和田壽弘 評議員



研究所の評議員に二〇一六年六月に就任させて頂いたとき、九一年半が過ぎました。定例の評議員会には必ず出席し、折に触れて発言をして参りましたが、建設的なものだったかどうかは今もって再考するときがあります。

評議員の仕事に加えて、大学勤務の時代からの研究を続けています。前回「東方だより」に寄稿したのは二〇二三年二月のことでした。その中で、私の専門であるインド新論理学（ナヴァヤ・ニヤヤー）に関する日本語単著の出版に触れ、次にこの学統の言語論に関する英語単著を刊行したい旨に触れました。幸いにして同年七月に『The Navya-nyāya Analysis of Language: Semantics of Verbs（『インド新論理学における言語分析——動詞の意味論——』Studia Asiatica アジア研究叢書）を公刊できました。インドの言語論についての研究ですが、人間が言葉を理解す

るとはどういうことなのかという問題の解明に向けての一助になればと密かに願っています。研究書という体裁を取りながらも、新論理学の言語論の勉強を始めたという方々に向けての基礎的な説明を含めるようにも努めました。

大学を定年退職する前年から始めた研究課題について、退職後も毎年度複数の論文を書いてきました。今年度は研究所の学術誌『東方』第四十一号に拙稿が掲載していただけることとなりました。

さて、研究所の연구원の方々、東方学院の講師の方々は自身の研究や実践を続けながら学院の講義を担当されています。そして生徒数の多寡にかかわらず情熱を注いでおられることに本当に頭が下がります。現代社会を意識すればするほど、古典的な知もまた同様に不可欠だということを実感させられます。インドや仏教に関する知の在り方を広く伝える研究所の研究活動および学問や文化の普及活動に、評議員として僅かながらでもお役に立てたらと願うばかりです。

わだ としひろ
1954年大垣市生まれ。名古屋大学卒業、プーナ大学大学院（インド）修了。名古屋大学助手・助教授・教授、この間に同大学大学院文学研究科長・文学部長。2016年中村元東方学術賞受賞。2020年同大学定年退職。現在名古屋大学名誉教授。

新 刊 案 内

平木光二著 『パーリ入門：独習者のための文法書』



本書はパーリ語独習者のための文法書（入門・初級レベル）です。関係代名詞、韻律、名詞文、品詞の転換、性の交替、所有の与格構文、ヴァッカーナーゲルの法則など重要な文法事項について詳説しています。例文は散文、韻文経典（サンユッタ・ニカーヤ、スッタニパータ、ダンマパダ、ウダーナ、ジャータカ）をはじめヴィナヤ（律蔵）やアッタカター（注釈書）、その他の素材（ミリンダ王問経、歴史書サーサナヴァンサ）からも採取し、多様な文体に接することができます。

単行本：206頁
出版社：デザインエッグ
出版年月日：2025年10月27日

ISBN-13：978-4-8150-4950-8
言語：日本語
定価：2,310円（税込）

中村元博士の 知的遺産を守り続けて

清水谷善圭理事



中村元記念館（島根県松江市）の清水谷と申します。今回は同記念館の活動の一端をご報告申し上げます。

昨年三月末、二〇一二年の開館以来続けてきた中村博士の蔵書約三万四千冊の登録を終え、新たに六、七十万点あるとされる諸資料のデータベース化に着手しました。博士の日記、交換書簡、手書きの原稿、クリップ留めの覚書カードなどの一つひとつにタイトルをつけ、写真や概要などを入力しております。現在整理できたのはまだ千点ほどですが、鋭意作業を進めているところです。

開館三年目から始めた「中村元東洋思想文化賞」も、無事第十回の授賞を終え、若手研究者の登竜門として知名度も上がっているようです。受賞者を輩出した大学ではホームページなどで受賞を誇ってくださいっています。

また、昨年六月から半年間にわたって開催した「中村元博士の戦争と平和」と題した収蔵展には、NHK松江局など山

陰地方のマスコミ各社が取材に訪れ、展示内容を詳細に報道してくれました。日本は戦後八〇年の節目を迎えましたが、世界ではロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの戦争が激しさを増しております。こうした中、博士の平和思想、特に『世界思想史』に寄稿された次の一節が、人々の心に大きく訴えたからだと思っております。

思想は種々の形で表明されるけれども、人間性の一つである。今後世界は一つになるであろう。……今日では従前のいかなる時期におけるよりも以上に異なった文化圏のあいだの相互理解が敏速に行われている。……世界の哲学宗教思想史に関するこのような研究が、地球全体にわたる思想の見通しに役立ち、世界の諸民族のあいだの相互理解を育て、それによって人類は一つであるという理念を確立し得るに至ることを、切に願うものである。

二〇二六年には「中村博士誕生」資料展を開催予定です。引き続き、中村博士の思想を後世に伝えるべく、努めてまいります。

しみずたに ぜんけい
1947年兵庫県生まれ。大正大学仏教学部卒業。島根県仏教会会長、全日本仏教会副会長を歴任。現在は瑞光山清水寺（島根県安来市）長闍、特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所理事長。

新 刊 案 内

スムパ・ケンポ・イエシエー・ペルジヨル著
西岡祖秀、森秀雄 翻訳・解説
『スムパ・ケンポのチベット仏教史年表』



スムパ・ケンポ・イエシエー・ペルジヨル(1704～1788)が1747～78年に著した『パクサム・ジュンサン』中に掲載されている「チベット仏教史年表」のチベット語原文のローマナイズと和訳を見開きページで対照させたもの。年表は1027～1746年までの720年間にわたるもので、チベット仏教の年代を確定するうえでの第一級の資料である。解説と索引を付す。

単行本：234頁
出版社：東方出版
出版年月日：2025年12月15日
ISBN-13：978-4-86249-472-6
言語：日本語
定価：6,600円（税込）

令和7年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※令和8年1月20日受領分までを掲載しております。

維持会員

一心寺 宇杉真 川崎大師平間寺 川崎寿子 宗教法人清水寺 宗教法人高岩寺(とげぬき地藏) 公益財団法人克念社
 西来寺 史跡足利学校事務所 釈悟震 株式会社春秋社 浅草寺 高尾山薬王院 高橋堯英 高松孝行 中央学術研究所
 千綿道人 塚田貫康 津田眞一 トヨタ自動車株式会社 成田山新勝寺 念法真教金剛寺(桶屋良祐) 菱徳実業株式会社
 藤井教公 公益財団法人仏教伝道協会 法清寺(奈良修二) 前田専學 前田式子 三木純子 水野善文 三友健容
 学校法人武蔵野大学 吉田宏哲 渡邊信之 匿名一名

賛助会員

阿部敦子 栗野芳夫 飯高淑子 一島正真 入井善樹 遠藤康 大井玄 大熊善晴 太田正孝 大谷光真 小笠原隆元
 岡田行弘 緒方康信 勝田康司 桂紹隆 加藤壯祐 加藤みち子 黒川文子 菅野博史 観音院(来馬正行) 岸實瑩
 北村彰宏 木村清孝 倉田治夫 小林守 齋藤明 齊之平伸一 佐久間留理子 櫻井瑞彦 佐藤行教 慈光院(戸田忠)
 淳心会(日野紹運) 末木文美士 菅沼莊二郎 須佐知行 鈴木忠一 鈴木勇介 関戸堯海 宗教法人題経寺(柴又帝釈天)
 高橋審也 田上太秀 武田浩学 多田孝文 立花ひろ子 田中勝洋 田中ケネス 田中進互 田丸淑子 辻口正雄
 戸田裕久 中谷信一 長野市南長野仏教会 中村行明 中村久夫 西内之朗 西尾秀生 西岡祖秀 西宮寛 野津一成
 日本ヨーガ禅道院 長谷川善永 畠中光享 羽矢辰夫 一月正人 比良佳代子 平井恭子 笛木敬代 福重利夫
 福留順子 藤井知興 法恩寺 寶幢院(原隆政) 堀江順司 前野直子 三木保 水谷浩志 三石造形芸術院 三友量順
 宗教法人密蔵院(山口正純) 宮元啓一 矢島道彦 山口泰司 好井瑞院 和田壽弘

東方学院後援会

総本山四天王寺 瀧藤尊淳 南谷恵敬 森田俊朗 健代和央 塚原昭應 吉田明良 廣瀬善重 坂本峰徳 森田惇朗
 瀧藤康教 山岡武明 加藤公啓 新井順證 南谷和聖 今宮戎神社 律宗総本山唐招提寺 念法真教 学校法人清風学園
 古泉圓順 大神神社 宗教法人東大寺 四天王寺大学

ご寄付

一島正真 岡村光展 上村伊都子 川崎寿子 建代和央 高橋堯英 田中教照 念法真教金剛寺 比良竜虎 福重利夫
 公益財団法人仏教伝道協会 御園生妙子 三友健容 三宅善夫

東方学院創立五十周年記念事業ご芳志

観音院(来馬正行)

東方学院維持・発展のためのご寄付

岡村光展

新刊案内

田中公明著『両界曼荼羅をつくる』



仏教の世界観を視覚的に表す曼荼羅。その中でも両界曼荼羅とは、真言密教でもっとも重要とされる二つの経典、「金剛頂経」と「大日経」に基づく、金剛界曼荼羅と胎藏界曼荼羅を併せた作品である。本書では数多くの作例を目の当たりにしてきた著者永年の曼荼羅研究の知見を基に、空海が日本に請来した現図曼荼羅の正しい姿に迫る。

単行本：112頁
 出版社：中央公論美術出版
 出版年月日：2025年5月29日

ISBN-13：978-4-8055-1001-8
 言語：日本語
 定価：3,300円(税込)

東方学院 講師ご紹介

西村実則 講師

(東京本校)

中村元 『未来をひらく思想』



中村元師の一般人に對する啓蒙書で文庫本になってい

るものに、『仏典のことば』(岩波、同時代ライブラリー)、『東方の言葉』(角川ソフィア文庫)がある。『仏典のことば』は広く一般人に對して「経済的行為の意義」「政治に對する批判」「理想社会をめざして」についての講演録、『東方の言葉』は代表的なインドの仏教以外の哲人、初期仏典のことば、中国、日本の仏教者のことばの解説、それに日本古来の「かながき」仏教書、語録を紹介したものである。

これらの外に、わたしが特に注目するのは一九七〇年、師の五十九才の時の『未来をひらく思想』(佼成出版)である。「はしがき」にあちこちに書いたものを改めて手を入れたとある。本書は教育における宗教の位置づけ、東南アジア仏教国、ハワイの仏教事情、日本仏教界に對する具体的な提言(教義は必要か、民衆にわかることばで説いているか)、仏典研究の方法、仏教は民族とともに時代とともに躍動していく、あるいは仏とは慈悲そのものとの金言まで述べられており、きわめて重要な書である。『生活と仏教』の第二巻目というシリーズものであったためか、一般によく知られているとは思われない。誰もが手に取れるように、ぜひどこかの出版社で文庫本として再刊してほしいと思う。



にしむら みのり
1947年富山県高岡市生まれ。大正大学名誉教授。大正で当初、アビダルマ教義学から出発したが、今思うと、我ながら概念操作のようなことをよくやっていたと思う。この頃は、学恩を受けたインド学仏教の先人たちの業績を味読しています。



しかし現地で出会った僧侶の「修行生活は大変だけ



しおた ほうじゅ
1990年愛知県名古屋生まれ。名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程単位取得満期退学後、2024年3月に学位取得。同年4月より身延山大学仏教学部仏教学科日蓮学専攻助教。研究分野はパーリ文芸理論。

「小乗」と言うこと勿れ

塩田宝樹 講師 (中部校)

二〇二五年度より名古屋にて「パーリ語入門」を担当しております。パーリ語は、スリランカや東南アジアを中心に伝承されてきた上座部仏教の正典言語であり、インド・アーリア語族に属します。仏教思想を歴史的・文献学的に理解するうえで、パーリ語は重要な言語です。

れど、自分が修行をしつかり積まないで、他の人を救うことができないからね。」という言葉は、上座部仏教を自己の修行に邁進する教えとみなす通念を問い直すものでした。彼らは戒律を遵守し、經典を誦読・学習していますが、決して他者の救済を蔑ろにしていたわけではなかったのです。

私が上座部仏教に強い関心を持つようになった契機は、大学生時代に訪れたスリランカでの体験にあります。当時は、古くから広く用いられてきた「上座部仏教Ⅱ小乗仏教」という理解を、十分に吟味することなく受け入れていました。

この経験を通じて、私は上座部仏教を思想的・実践的に改めて見直す必要性を感じ、上座部仏教研究へと進みました。本講座では、パーリ語はもちろんです、上座部仏教の国々を訪れた際の体験談を交えながら、上座部仏教のことも少しずつ紹介していきます。この機会に一緒に勉強してみませんか？もしかしたら、仏教の見方が少し変わるかもしれません。

東方学院
研究会員の声

中村(太瑞) 知見さん

(東京本校/オンライン)

三十二年ぶりに東方学院で
学んでいます。

一九九四年、薬学の研究がひと段落した私は、新たに仏教を学ぼうと志しました。当時は仏教学について何も知らず、仏教学者といえば中村元先生のお名前しか思い浮かびません。東方学院の存在を知り、幸運にも中村元先生から直接、授業を受ける機会を得ました。毎回の授業が実に興味深く、「仏教とはこんなに面白いものだったのか!」と深く感銘を受けました。



その後、自身の専門(薬学)を生かすべく、「仏典に登場する薬」の研究に取り組みました。ここで大きく立ちほだかったのは、パリ語をはじめとする語学の壁。これらに長く悩まされ続けました。そうした折、二〇一三年に出版された八尾史先生の『根本説一切有部律薬事』に出会い、その内容に衝撃を受けました。膨大かつ緻密な研究でありながら、文章が非常に読みやすいのです。あれほど平明な文体で仏典を翻訳された本を読んだのは初めてでした。

二〇二五年、その八尾史先生が東方学

院で「パリ語初級」をご担当されると知った時には、もう小躍りするほど喜びました。もちろん、すぐさま受講を申し込みました。三十二年ぶりの東方学院!

授業は毎回、想像を遥かに超えて面白く、これまでの疑問や苦手意識が少しずつ氷解しています。学ぶことの喜びを、再び東方学院からいただいております。ありがとうございます。

坂梨幸さん

(関西校)

真宗と禅宗に関わる法具や道具の夢を何度も見て、その具体的な意味を知りたくなり旦那寺の前住職にご相談。二年前、東方学院にご縁をいただくこととなりました。

仏教を学ぶにあたり、全く下知識を持たないままの私は、事務局に相談後、講座紹介から体験受講を経て、京都の岡本健資先生にお世話になっております。

受講者は男女合わせて計五名で、お二人の方はオンラインで受講中です。私のような初心者ですが、仏教を何年も学んでおられる受講生の方がたのお気遣いや優しさと、温厚でユーモアがあり、学ぶ者を非常に大切にしてくださる先生が醸し出す、心地好い雰囲気の中で、

楽しく学んでいます。

疑問や質問へは先生からのわかりやすいご回答や解説があり、情報共有も積極的に行ってくださいるので、気後れして悩むことはなかつたです。

ひとつの説話を、複数の参考文献や見解、情報、受講生や先生の感想から皆で読み解いていくことで、自分なりに理解でき、得ることの多い面白い講座であり、毎回、時の経つのを忘れてしまうほどに夢中になってしまいます。



イタリアのウフィツィ美術館で、ポッティチェリの描いた「ヴィーナスの誕生」を前に。自分のすべての(価値観を含む)源であり、東方学院とのご縁のきっかけをくれた母と一緒に。

【お知らせ】

★二〇二六年度東方学院のお申し込み受付中です。

今年も仏教やインド哲学などをはじめとした東洋思想の講義が豊富にございます。講義内容やお申し込みについて、詳しくはホームページをご覧ください。



東方学院
ホームページ

研究員の声

袋井由布子 専任研究員

仏像の「視覚言語」が伝えるもの

現在、インド最南端東部のタミル地方で仏像の調査を続けている。同地方では野外に放置される仏像も多いが、ブッダル(タミル語で「仏陀」と呼ばれ村々で、時にヒンドゥー寺院境内で供養される仏像もある。インドで仏教は消滅したのに、なぜ人々は仏像を仏陀として拝みつづけるのだろうか。

シカゴ博物館にはタミル地方で十二世紀頃に造られた石彫仏像が一体所蔵されている。注目されるのは同像の背中一面に刻まれた碑銘で、ようやくこの碑銘に関する論考が発表された(Cox W. 2025 "Bricks from a Tamil Pagoda")。まず仏像の碑銘は十七世紀半ばのもので、そこでは新たに完成した貯水池から適量を超えて水を汲むこと、周囲の木を切る事が禁じられている。碑銘を解読したコックスは次のように

述べる。過去の仏像が「立ち入り禁止」の看板のように成り下がってしまつたと思われるかもしれないが、この碑銘には通行人に冷たい飲み物と日陰を提供するという慈善、博愛の心がある。それは仏陀の慈悲の心とも共鳴する。碑銘と仏像制作の間には五百年ほどの時間差があるが、見る者が誰でもろうと仏像は仏陀の姿を表わしたものの、すなわち慈悲の心を持った方の姿であることは明白だ。そのような仏教的な「視覚言語」の意味があるからこそ、人々は仏像に手を合わせ、そしてこの碑銘が仏像に刻まれたのだろう。以上のようなコックスの見解は日頃、仏像の表面的な特徴ばかりを追う私にとり衝撃であった。今後は仏像が発する「視覚言語」に耳を傾け、現地調査に向いたいと思う。



板敷真純 専任研究員

女性が語る仏教 — 中世真宗の物語に見る女性像

中世日本仏教、特に真宗の物語には、現代の私たちが意外に思うような、女性の宗教的役割が描かれています。近年私は、中世の僧たちが教化の場で用いた「物語」とりわけ真宗内で広く用いられた『熊野教化集』と『有善女物語』を研究しています。『熊野教化集』は、熊野神社の祭事に集まつた人々に対し、「女房」と呼ばれる女性が阿弥陀仏の教えを説く物語です。その語りによつて聴衆が念仏へと導かれていく様子が描かれています。一方、『有善女物語』では、中国の僧・善導の弟子である有善女が、婆羅門である夫に念仏を勧め、夫婦での往生を説いています。



これら二つの物語は女性を脇役ではなく、教化の担い手として明確に描き出しています。女性が男性や僧侶に対して教えを説き、人々を

念仏へと導く姿が物語の中心に据えられているのです。私たちは仏教の教えを語るのには出家者だと思いがちです。しかしこれらの物語で教えを説くのは尼僧ではなく、「女房」や妻といったごく一般的な女性たちです。『有善女物語』の有善女は後半で出家しますが、夫に教化を行う場面では、あくまで妻として描かれています。従来の中世仏教研究では、女性

は主に「被救済者」として理解されてきました。しかし近年では、「救済者」や「善知識」としての役割を担う女性たちの存在が、史料からも明らかになりつつあります。こうした女性像は実在の人物に限らず、教化のための物語の中にも描かれているのです。歴史の中で人々がどのような仏教物語に共感し、何を理想として生きてきたのかを知ることがとても重要です。それらは現代社会のさまざまな課題に向き合う私たちのヒントとなるり得るものです。

いたじき ますみ
1989年東京都生まれ。東洋大学文学部インド哲学科卒。同大学院文学研究科インド哲学仏教学専攻博士後期課程修了、博士(文学)。日本中世仏教。最近の論文は「僧の妻の系譜、坊守の系譜」大谷由香編『性なる仏教(アジア遊学300)』(2025年、勉誠社)。

行事 イベント 報告

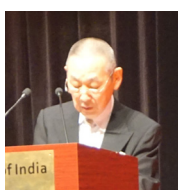
第35回中村元 東方学術賞授賞式

令和7年10月10日(金)開催
於インド大使館



公益財団法人
中村元東方研究
所の顕彰事業の
一環として、第
35回中村元東方
学術賞及び若手
研究者に贈られ

る第11回中村元東方学術奨励賞の授賞式が、インド大使館オーデトリウムにて開催されました。第35回中村元東方学術賞は京都大学名誉教授の横地優子氏が授賞しました。



藤井教公理事長
は、横地優子氏
は、サンスク
リット文献学
ヒンドゥー教



横地優子博士

の研究者として、特に『スカ
ンダ・プラーナ
(Skandapurāna)』
に関する業績を
多く残されてい
ます。プラーナ

とはヒンドゥー教の聖典を指し
ます。横地氏はその専門家とし
て、オランダのライデン大学が
主導する国際プロジェクト「The
Skandapurāna Project」にも参加
されており、今後、日本のインド
文学・インド思想の学界にとつて
も大きな業績になるであろうこと
を理由としての授賞となりました。



マドゥ・スーダン
駐日インド
首席公使

藤井教公
理事長よ
り「中村
元東方学

術賞賞状」、マドゥ・スーダン駐
日インド首席公使より「功績証明
書」が授与され、大木舞京都大学
白眉センター特定助教から祝辞が
述べられました。

若手研究者を対象とした、第11
回中村元東方学術奨励賞は、立命
館大学衣笠総合研究機構専門研



朴海仙氏

研究員、朴海仙
氏の著作『植
民地朝鮮の予
言と民衆宗教』

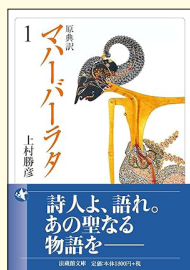
に贈られました。朝鮮の予言書「鄭
鑑録」の内容とその流布の過程、
朝鮮民衆および宗教教団に与えた
影響を丹念に分析した本書は、斬
新な視角のもと日本の宗教との関
係にも触れた画期的な研究として
高く評価されました。

授賞式後には祝賀会が催され、
和やかな懇談の場が設けられまし
た。授賞式ならびに祝賀会には約
50名が参加しました。終了後、帰
途につく東方研究所のスタッフが
車のパンクに見舞われるというハ
プニングもありましたが、授賞式
および祝賀会は例年通りに和やか
に円了しました。



新 刊 案 内

上村勝彦翻訳 『原典訳 マハーバーラタ 1』



神々の血筋を引くクル王家の系譜と、一族を破滅へ導く大戦争への道のりを数世代にわたって描く『マハーバーラタ』。古代インドに産声を上げ、いまなお人々の心に生き続ける世界最長の叙事詩の、信頼すべきサンスクリット原典訳の待望の復刊。

文庫：496頁
出版社：法蔵館
出版年月日：2025年11月15日
ISBN-13：978-4-8318-2712-8
言語：日本語
定価：1,980円(税込)

新 刊 案 内

竹村牧男著 『空海の密教思想』

一切の他者は自己である——

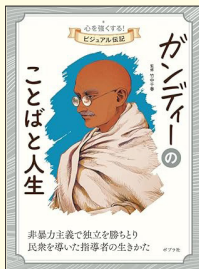
空海の著作を丁寧にもととき、説かれた言葉の真意をさぐりあて、密教思想の核心を発掘する。空海は世界がどのようにあると見ていたのか、その根本にある「大日如来の大智と大悲」とはなにか。その人間観、言語観、修道論などから、仏教研究の泰斗が、偉大なる巨人・空海の思想の全貌にせまる。

単行本：288頁
出版社：青土社
出版年月日：2025年8月27日

ISBN-13：978-4-79177736-5
言語：日本語
定価：3,080円（税込）



竹中千春監修 『ガンディーのことばと人生 (心を強くする！ビジュアル伝記 12)』



戦後80年。いまなお戦争の絶えない世の中で、もっとも注目されている指導者のひとり、ガンディー。ガンディーが生きた時代、関係の深い人々、関連のある街、豆知識やクイズなど、資料ページも充実。

児童向け単行本：112頁
出版社：ポプラ社
出版年月日：2025年4月9日

ISBN-13：978-4-591-18501-8
言語：日本語
定価：2,090円（税込）

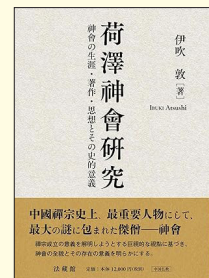
伊吹敦著 『荷澤神會研究』

中国仏教史上、最重要人物にして、最も謎に包まれた傑僧——神会。

中国仏教を「都市仏教＝国家仏教」と「山林仏教＝アウト・ロー仏教」とに二分して捉える巨視的視座に基づき、初期禅宗史の転換点となった神会の思想的営為の全貌を解明し、その史的意義を明らかにしようとする革新的研究。

単行本：624頁
出版社：法蔵館
出版年月日：2025年1月25日

ISBN-13：978-4-8318-7785-7
言語：日本語
定価：13,200円（税込）



田上太秀著 『人間ブツダ』



仏教はまずもって釈尊が一体なにを説き、どんな生き方を説き、そしてどんな信仰の在り方を説いたかを学ぶことが大切である。仏教を正しく理解したら、我が身を見る目が変わるだろう。生きて生かされている我が身に気づくだろう。

ブツダの生涯をたどり、その教えを平易に解説。

単行本：156頁
出版社：大法輪閣
出版年月日：2025年1月21日

ISBN-13：978-4-8046-1453-3
言語：日本語
定価：1,980円（税込）

事務局通信

【編集部より】 東方だよりの特長は、様々な人から紡ぎだされる言葉です。中村元東方研究所や東方学院とつながりを持ってくださった方々の背景や取り組んでいることなどを読ませていただきますと、多様な「ご縁」を感じずにはられません。東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。本誌に関するご希望がありましたらお便り、メール等（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受けた「公益財団法人」であり、さらに、「税額控除」対象法人の要件を満たす証明書を内閣府より受けておりますので、上記（1）（2）の一般ご寄付及び維持会賛助会の会費は、税制上の優遇措置を受けられます。確定申告時に、①「所得控除」②「税額控除」のいずれか減税効果の高い方を選択できます。

多くの場合、「税額控除」を選択されると所得税額が少なくなり有利となります。一方、所得税率の高い方は、「所得控除」を選ばれると還付額が大きくなる場合もあります。確定申告の際には最寄りの税務署にご相談ください。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

(スマートフォン対応)

中村元東方研究所

検索

- ▶ 当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶ 中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶ 専任研究員紹介、書籍案内

東方学院専用ホームページ URL :

<https://www.toho-gakuin.org>

(スマートフォン対応)

東方学院

検索

- ▶ 東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和7年度後期号（通号第47号）

【編集 / 発行】 公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階

令和8年2月9日発行

編集責任者：釈 悟震

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082